ヒマワリはウクライナの国花です

★食べ物について考えたい人に

『一晩置いたカレーはなぜおいしいのか』
稲垣栄洋　新潮文庫

『小麦粉の魅力　再改訂版』
製粉振興会

☆進路について考えたい人に

『新13歳のハローワーク』
村上龍　幻冬舎

★マンガが好きな人に

『ちはやふる（48）』
末次由紀　講談社

「呪術廻戦」シリーズ
芥見下々　集英社

特集＊ウクライナについて

『物語ウクライナの歴史』
黒川祐次　中央公論新社

サブタイトルは「ヨーロッパ最後の大国」。はるか昔から一九九一年に独立するまでの長い歴史を語ります。ウクライナの文化はロシア文化に大きな影響を与えています。コミック『のだめカンタービレ』（図書館にあります）を読んだことはありますか？　「カンタービレ」とは「歌うように」という意味ですが、有名なチャイコフスキーの「アンダンテ・カンタービレ」は、ウクライナ民謡のメロディーを元にしているそうです（チャイコフスキーの祖父はウクライナのコサック）。

『ソモフの妖怪物語』
ソモフ　群像社

ウクライナ生まれの十九世紀の作家ソモフが、ウクライナの昔話を元に書いた作品集です。

『ロシア点描　まちかどから見るプーチン帝国の素顔』
小泉悠　PHP研究所

かつてロシアでくらしたことのある作者が「ロシア人はどんな人々なのか」「ロシア人はどんなふうにくらしているのか」「他国との関係はどうか」などを語ったエッセイ集です。

『ウクライナを知るための65章』服部倫卓
明石書店

ウクライナの歴史や文化、現代ウクライナと日本の関係に至るまで、ウクライナの入門書です。

『ウクライナから愛をこめて』
オリガ・ホメンコ　群像社

ウクライナの首都キーウ（以前の呼び名は「キエフ」）で生まれ、日本に留学した女性が日本語で書いたエッセイ集です。

チェルノブイリ原発事故の後、白血病で亡くなった若い女性の思い出。

福島の原発事故でフラッシュバックするチェルノブイリ原発事故の記憶。

ウクライナという国は、昔からいろいろと辛い目にあってきたのだということがよくわかります。

悲しい話が多いのですが、それでもどこかほのぼのとする本です。

『ポケットに外国語を』
黒田龍之助　ちくま文庫

さまざまな外国語のお話。ウクライナ語やロシア語やベラルーシ語の話ものっています。

『戦争は女の顔をしていない①～③』小梅けいと
KADOKAWA

ソ連は第二次世界大戦で百万人以上の女性が従軍しました。原作者はベラルーシ出身（母親はウクライナ）の女性で、従軍した五百人以上の女性から戦争中の話を聞いたそうです。それを小梅けいとさんがマンガ化し、日本漫画家協会賞を受賞しました。

『台所のマリアさま』
ルーマー・ゴッデン　評論社

第二次世界大戦が終わり二十年以上たった頃。コミュニケーションの苦手な少年グレゴリーは、ウクライナ人の家政婦マルタを幸せにするため、聖母子の絵を描こうとします。